

緊急街頭募金を 行いました

ミャンマーサイクロンや中国大地震での子どもたちの被害状況は目を覆うばかりです。今も多くの子どもたちが不自由な生活を強いられています。

県支部では5月から6月にかけて、3カ所で計6回の募金活動を行い総額162,011円の温かいご支援をいただくことができました。

ありがとうございました。

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

Vol.24 (2008年夏)

unicef 

● 報告会を開催

Wish23号で帰国をお知らせした川本朋子さんの現地報告会「知ってほしい、ホンジュラスのこと」を2008年6月28日(土)、コ-プこうべ生活文化センター4階第3会議室で開催しました。

「知ってほしい、ホンジュラスのこと」

川本さんはJICA青年海外協力隊員としてプラン ホンジュラスに配属されました。「子どもを地域住民の一人として地域を変える力に」というプラン

の全体方針の下、「農村地域に子ども参加の場をふやす(子ども達が様々な自己表現の手段を身につける)」ことを目標に、任地西部コパン県で約2年間活動しました。

ホンジュラスは中米の中で最も開発の遅れた国のひとつで、農村部と都市部の所得格差、基礎教育、保健衛生、インフラ、防災など多くの課題をかかえています。国民性は保守的で、内戦の歴史を持たないことが誇りでもあるようです。小学校6年間(7~12歳)の義務教育制度で就学率は80%以上あるものの卒業率は60%程度で、中学への進学率はその30%未満。校舎は古く運動場などのスペースはあまり無く、教員や教科書も不足しています。教科書を理解していない教員もいて、繰り返すばかり

で考えることのない単調な授業、といった教育の質の問題もあります。

川本さんたちメンバ-は、任地の村の、地域一体行事が少なく学校行事・遊び

の場も少ない状況を変えるために、まず子ども会の組織づくりから活動を始めました。地域のお祭り、サッカー大会、劇、紙芝居、おりがみ、手洗いキャンペーン等々。実践を通して「子どもの権利(表現の自由といった子どもの権利)」を実感としてわかる、という大切さを伝えたいと考えました。そうした想いを、講演会など学習形式で「教えよう」とする他のメンバーに理解してもらおう事が、まず大きな

課題だったとのこと。

「人格を育てるのも、歌や絵などを楽しめる知識を与えるのも、国の人材を育てるのも、まず『教育』があるから」という事を自ら感じ、考え、自分自身

「¡Qué trabajadores!
みんなよくお手伝いをします。」

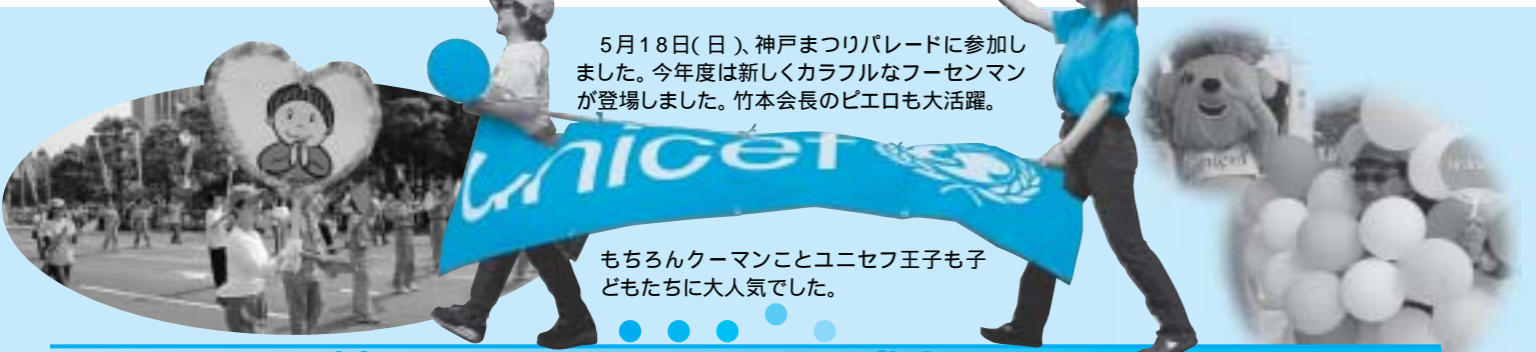


講師：川本朋子さん

青年海外協力隊員として2005年12月から2年間ホンジュラスで活動(元県支部ボランティア・UNIES)



の言葉で語る川本さんの姿と、スライドの中から微笑みかけるたくさん子ども達の笑顔が、心に残る報告会でした。



5月18日(日)、神戸まつりパレードに参加しました。今年度は新しくカラフルなフーセンマンが登場しました。竹本会長のピエロも大活躍。

もちろんクママンことユニセフ王子も子どもたちに大人気でした。

2008 神戸まつりパレードに参加しました



トピックス(2008年4月~7月)

4月13日(日)
ユニセフカップマラソン「2008 芦屋国際ファンラン」

8000人を超える参加者で開催されました。恒例の仮装コンテストもあり、会場となった芦屋浜中央公園は家族連れなどで一日賑わいました。



4月22日(火)~30日(水)
ユニセフ写真展「EYE SEE ~パキスタンの子どもたちが見た地震のそのあと」を開催



5月8日(木)
『farmhouse cafe』でユニセフの写真とパネル展が開催期間中(4月18日~30日)に寄せられた募金をいただきました。



5月20日(火)
インドの船会社 Chellaram shipping社より、ミャンマー被災の子どもたちへ

神戸クラウンプラザホテルで募金贈呈式がありました。

5月31日(土)
ミャンマーサイクロンへの支援 関西総合リハビリテーション専門学校(淡路市)の学生有志が校内でユニセフ募金の呼びかけを行い、県支部へ届けてくださいました。

6月9日(月)
中国大地震への募金 コ-プこうべ労働組合、コ-プこうべ定時職員協議会からそれぞれ緊急募金をいただきました。



6月7日(土)
タンザニア・ミュージック&ダンスコンサートに参加 カード・グッズの頒布、ユニセフ紹介活動を行いました。



6月14日(土)
ユニセフメンバー初デビュー、大いに活躍!! 日本国際学生協会主催の学習会で講師を務めました

コミスタ神戸で開催された「ユニセフ学習会」に、ユニセフのメンバーも一緒にお伺いしました。ユニセフ活動の基礎知識・

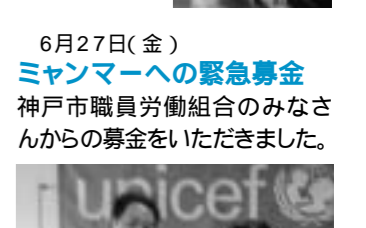
カンボジア報告・ワークショップ・ユニセフ紹介などを行いました。参加された大学生のみなさん、とても熱心でした。



6月18日(水)
ミャンマーサイクロン・中国大地震への募金 芦屋市立潮見中学校にて募金贈呈式が行われました。全校生徒、保護者の方からもご協力いただきました。



6月23日(月)
中国大地震への募金 5/31~6/22の期間、「IEA神戸ポートアイランド店」へご来店のみなさまから、募金をいただきました。



6月22日(日)
ミャンマー・中国四川の被害にあった子どもたちへ 神戸市立王子スタジアムで開催された「神戸大学フットボールデー2」での収益金を、ユニセフへの募金としていただきました。



7月1日(火)
中国大地震へ 伊藤ハム株式会社の職員のみなさんからの緊急募金をご持参いただきました。

7月7日(月)
コ-プこうべフォークソング同好会「TOMOYO」のみなさん ユニセフ募金をご持参くださいました。



7月5日(土) 今年もユニセフ・ボラ塾は充実度100% ~ テーマは「環境」

県支部で活動するボランティアのスキルアップ講座「ユニセフボラ塾」は今年で3年目、3回シリーズの1回目は、折りしも環境問題が大きな焦点となった洞爺湖サミットを2日後に控えた7月5日に実施されました。講師の小川雅由さん(こども環境活動支援協会事務局長)は、まず、資源の循環型社会にするためにリサイクル活動はリサイクル商品の購入・使用についての市民の理解が不



可欠なこと。また将来の環境を守るためには、生態系のバランスを崩さない事が大切なポイントだと話されました。

国連が推進するESD(持続可能な開発のための教育)活動の西宮市の旗振り役としても活動する小川さんは、それぞれがこれまで学んできたことを自分の中で醸成し、さらに学びながらそれを地域を越えて多くの人達に伝えていくことこそが環境を守っていく基本的な考え方だと提案をいただきました。2回目以降の内容については6頁お知らせ欄をご覧ください。

レポート：ユニセフ・カンボジア スタディーツアー報告

杉山 三千
(県支部ボランティア)

自立支援の現場を訪ねて

「みなさん!ユニセフは途上国で物やお金を渡すだけではなく自立支援をしているんです」。学習チームに属し、学校や団体にユニセフ基礎知識の広報活動をしてきた私は毎回自立支援を強調してきました。今回のスタディーツアーはその支援の具体的な方法を実際に見て確かめることが出来るという期待を持って3月16日からカンボジアに向け出発しました。プノンペンにあるユニセフカンボジア事務所の代表者は日本人女性の坂井スオミさん。国内、近隣諸国を飛び回る多忙な毎日です。視察初日、坂井さんからカンボジアの歴史と特殊な背景をお聞きしました。



ユニセフカンボジア支援の歴史と背景

カンボジアは1953年に独立して以来、内戦などで国内が安定せず、1975年のポルポト政権成立後は恐怖政治のもと大量の国民が虐殺されました。プノンペンのトゥルスレン刑務所には全ての処刑された人々の顔写真が部屋一杯に貼られ、拷問室、骸骨等も展示されています。入口上部には笑顔の絵の上に赤い×印がついたマークがあり「ここは悲惨なことがあった場所なので笑ってはいけません」と書かれていました。現在はポルポト派と政府軍の残党が一緒に暮らしているため、混乱を避けるため学校では歴史を全て教えていません。私達もツアー中、ポルポト関係の質問は禁句でした。そのため「皆と一緒に世の中を良くしていこう」という制度作りがとても難しく、ユニセフ支援の大きな障害になっています。ベビーブームで人口の46.7%が18歳未満の国カンボジアは、これから若者達を国づくりに関与させることが課題です。



ワークショップの後リーダーが「これでトイレや井戸の大切さがわかりましたねー!」「はーい!」村人全員が手を挙げます。「では、自分達で協力してトイレや井戸を作りたい人は?」シーン。うつむく村人。リーダーは苦笑しながら「何度も繰り返し通って説明しないと解ってもらえないのですよ」と話してくれました。私たちには当たり前のトイレですが、その国の人々の考え方や立場に立った息の長い支援の必要性を感じました。

帰国してからカンボジア報告会で途上国のトイレ支援について聞いてみました。「せっかくトイレを作っても村人が使用しません。どうしたらよいか具体的に考えてください」年配者からは「トイレの必要性を長老や村長に伝えて村人に広めてもらう」「なぜトイレが必要なのか教える」、若者からは「トイレの必要性をイベントやゲーム仕立てにして教えてご褒美をあげる」「個室は寂しいので数人でするトイレを作る」「白い便器に慣れないので迷彩色か木目の模

様にする」などユニークな意見が出ました。普段ここまで具体的に支援方法を考えたことがない方にもユニセフの活動に興味を持ってもらえました。

女性中心の子どもの生存支援

カンボジアでは8割が自宅出産です。ユニセフはリスクを心配して保健センターでの出産を薦めていますが昔ながらの風習が根強く難しい。そこでシートや消毒液、へその緒を縛る紐などの入った自宅出産キットを配っています。生後6カ月までの100%母乳育児、予防接種や健康診断をする月1回の保健訪問サービスなど子どもの生存に関わる様々なユニセフ支援が村の女性グループにより広がっています。たくましく賢いお母さん達の姿に、女性パワーを感じました。その間、男達は村はずれで大賭博大会で盛り上がっていたそうです。



「子どもに優しい学校」教育支援

学校の校庭にはユニセフの井戸(とても軽い)廊下にはろ過器があり、いつでも清潔な水が飲めます。女子には



学校にトイレがあることがとても大切です。貧困など家の事情で6歳を過ぎて1年生になる子どものために落ちこぼれないよう事前に補習をするなど、ユニセフの「子どもにやさしい学校」作りが実感できました。最近テレビ番組や日本企業の支援でカンボジアに学校が作られていますが、単に校舎を作るだけでは充分ではありません。優秀な先生の育成(教師の給料は安く不人気)、親の教育への意識改革、生徒自身が楽しく学べる環境を作ることなど多方面に長期的な支援が必要であると感じました。

地雷被害者への支援



学校での教育の徹底で、毎年地雷被害者は減少しています。赤十字とユニセフは地雷被害者の精神的、社会的、経済的自立支援をしていました。訪問先の39歳の男性地雷被害者は精神的なダメージからDVに走り、無収入のため子ども達は学校に行けず自給自足の生活でしたが、支援活動を通して5月から椎茸栽培の仕事に就けると聞きました。きっと今頃頑張っていることと思います。

保護

プノンペンのストリートチルドレンを保護する施設、アンコールワットの

ある街シェムリアップでは、親による子どもの人身売買で多くの子ども達が警察署に保護されています。また毎年増えるDVのための駆け込み寺的な施設も視察しました。これらは長く地道な活動を必要とされ、ユニセフ職員は多忙な毎日です。シェムリアップに住んでいるのに、家族でまだアンコールワットに行ったことがないと苦笑するユニセフ職員の日焼けした顔が心に残っています。

坂井さんからのメッセージ



最終日、再びユニセフカンボジア事務所の坂井さんにお会いしました。彼女からの伝言です。「日本の子ども

達、学生さん達にぜひ伝えて欲しいことがあります。途上国の人への自立支援を具体的に心に思い描いてほしいのです。イマジネーションする機会を作るのは大人の役目です。そして子どもが生まれながらに持っている「正義感」を引き出して育ててほしい。100%完璧な世界は無理です。しかし、少しでも公平、平等な世界に近づける努力を人はするべきです」。

今の日本では死語になりつつある「正義感」。一週間の視察を終えればかりの私にはこの言葉が自然に心に染み込んでいきました。豊かな私達、そうでない人々を無視せず共に生活する努力をしていきたい。そのためにはユニセフの広報活動を長く続けていかねばと気持ちを新たにスタディーツアーでした。

募金や会員など、あなたができる方法でご協力ください

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします
口座番号: 00190-5-31000
加入者名: (財)日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも
1口 5,000円
学生会員...18歳以上の学生
1口 2,000円
団体会員...団体、法人、企業
1口 100,000円
申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願ひ

中国大地震緊急募金
郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「中国大地震 K1-280兵庫」と記入
ミャンマー・サイクロン緊急募金
郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「ミャンマー・サイクロン K1-280兵庫」と記入
スーダン緊急募金
郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「スーダン緊急募金 K1-280兵庫」と記入
アフリカ緊急募金
郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「アフリカ緊急募金 K1-280兵庫」と記入
自然災害緊急募金
郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「自然災害 K1-280兵庫」と記入
人道危機緊急募金
郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「人道危機緊急募金 K1-280兵庫」と記入

【共通】

送金手数料は免除されます。
口座名義: 財団法人日本ユニセフ協会
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ボランティア募集

世界の子どもたちのこと知りたいと思いませんか? 学習会、イベント参加、カード頒布、事務局運営、広報など、関わり方はいろいろあります。若者たち(高校生~大学生)のグループUNIESも参加しています。活動を通じていろいろな人たちの出会いが広がります。一度のぞいてみてください。

学習会 イベント参加 カード頒布
事務局運営 広報

写真展 「私の出逢ったアフリカ」



とき 8月12日(火)～24日(日)
9:00～17:00

ところ コープこうべ生活文化センター1階 展示室

内容 澤良世さん(元ユニセフ東京事務所広報官)の写真展。
長く内戦が続いたシエラレオネを中心に、ソマリア、コンゴ等の写真を紹介。

澤さんからのメッセージ

「...お母さんが子どもの将来について考え、若者が平和を選択することができる社会を創ることが紛争予防の、そして、アフリカの人々にとっての真の開発の第一歩ではないでしょうか。」(田沼武能『アフリカ』写真集から抜粋)

入場 無料

地球ステージ4

～果てなき回帰～

「ジャワ島中部震災救援篇」「終わらない貧困篇(フィリピン)」「パキスタン震災復興篇(前・後編)」「パレスチナ篇3」など

とき 8月16日(土) 開場13:30 開演14:00

ところ コープこうべ生活文化センター2階 ホール

入場料 一般(前売り)700円 小・中学生(前売り)500円
(当日)1,000円 (当日)700円
チケット販売...生活文化センター、協同学苑、コープカルチャー

主催: コープこうべ生活文化センター
協賛: 兵庫県生活協同組合連合会、コープこうべ好和会
後援: 日本ユニセフ協会兵庫県支部

ユニ・ボラ塾～環境～

2006年から始まったユニセフボランティア塾も今年で3年目になりました。今年は主に「環境」をテーマに開催しています。第1回目は、7月に西宮で活動をすすめている「NPO こども環境活動支援協会」の小川雅由さんを講師に実施しました。今後の予定は次の通りです。いつからでも参加できます。あなたもいっしょに学習しませんか。

とき・ところ

第2回 9月27日(土)13:00～15:00
コープこうべ生活文化センター西館 大会議室

第3回 10月11日(土)13:00～15:00
コープこうべ生活文化センター5階 第5会議室

講師

末吉洋文さん(帝塚山大学・法政策学部准教授)

参加費

無料(ただし、事前にお申し込みください)

ユニセフ・インド事務所 現地報告会

日本ユニセフ協会のインターンとして7月から9月末までユニセフ・インド事務所で活動される位田和美さんに、帰国後、早々にお越しいただく予定です。インドでの子どもの様子、ユニセフの支援活動など、実際に自分の目で見て、体験されたことをお聞きします。

とき・ところ

10月18日(土)13:00～15:00
(予定) コープこうべ生活文化センター

講師

位田和美さん

くわしくはお問い合わせください。

きょうどう学苑祭

とき: 10月25日(土)・26日(日)
ところ: コープこうべ協同学苑(三木市)

ユニセフカップ2008 西宮国際ハーフマラソン

～アフリカの子どもたちの命と健康を守ろう～

とき: 11月2日(日)
ところ: 阪神甲子園球場前～武庫川特設コース

兵庫県ふれあいの祭典

とき: 11月9日(日)
ところ: 淡路市立しづかホール

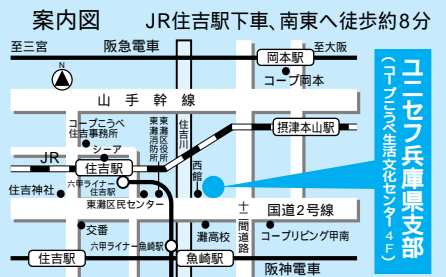
あ と が き

ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

近隣国に続き国内でも大きな地震災害が発生しました。頻度が高くなっているように感じます。暑さの目盛り先ここ数年で一気に進んだような気が。「パジャモ」という言葉はスワヒリ語で「(力をあわせて)いっしょにやろう」という意味だそうです。厳しい状況の中でこそ、人と人との「パジャモ」を発信し続けたいですね。(K)

Wish Vol.24号(2008年夏号)
ユニセフ兵庫ニュース

2008年(平成20年)8月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時～16時)



ユニセフ兵庫文化センター